

ArcGIS

ArcGIS Enterprise 10.9.1
機能比較表



・はじめに

本ドキュメントは、Esri 社が作成した ArcGIS Enterprise に関する機能比較表である "ArcGIS Enterprise Functionality Matrix" を ESRI ジャパン株式会社が翻訳・更新したのになります。
また、日本国内ではサポートしていない製品、機能もございますので、動作環境についての Web ページ(https://www.esrij.com/products/arcgis-enterprise/environments/10_9_1)も併せてご確認ください。

・目次

サーバーの機能	2
サービスの種類	3
ホストレイヤーの種類	3
コンテンツ	3
エクステンション	4
入力データの種類	4
ユーザータイプ別に指定できるロール	5
ポータル機能	5
ユーザータイプエクステンション	6
ユーザータイプ別に指定できるロール	6
サポートされるデータベース & データ接続	7
ArcGIS Enterprise の構築	9
ユーザータイプライセンス	10
ArcGIS Enterprise の基本ライセンス	11
Kubernetes	13
以前のバージョンの機能比較表	13

・サーバーの機能

サーバーの機能	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server ※1
Windows OS でのインストール	○	○	○	○	○	○
Linux OS でのインストール	○	○	○	○	○	○
Kubernetes でのインストール ※2	○	○	×	×	×	×
クラウド環境でのインストール	○	○	○	○	○	○
オンプレミス環境でのインストール	○	○	○	○	○	○
オフライン環境でのインストール	○	○	○	○	○	○
スクリプトと自動ワークフロー	○	○	○	○	○	○
分析モデルとモデルチェーンの作成	○	○	○	○	○	○
Web 上でのデータ編集	○	○	○	○	○	○
OGC Web サービスのサポート	○	○	○	×	×	×
住所情報から位置情報への変換 (ジオコーディング)	○	○	×	×	○	○
データをスキーマティック ダイアグラムとして表示	○	○	×	×	×	×
オフライン環境下での編集	○	○	×	×	×	×
ジオプロセッシング ツールと Web ツールの公開	○	○	×	×	×	×
ArcGIS 3D Analyst ツールの公開※3	○	×	×	×	×	×
ArcGIS Geostatistical Analyst tools の公開※3	○	×	×	×	×	×
ArcGIS Spatial Analyst ツールの公開※3	○	×	×	×	×	×
画像とラスターの動的なモザイク処理	×	×	○	×	×	×
動的ラスター処理と解析	×	×	○	×	×	×
ビッグデータの処理と分析	○	○	○	○	○	○
ストリーミング データのリアルタイム解析	×	×	×	○	×	×
位置情報を活用した通知	×	×	×	○	×	×
ジオフェンスの作成および監視	×	×	×	○	×	×
データサイエンス Python ライブラリの使用	×	×	×	×	○	○
タスクのスケジュール実行	×	×	×	×	×	○
ノートブック スナップショットの利用	×	×	×	×	×	○

○：利用可能
×：使用できない

※1：ArcGIS Notebook Server は Linux 環境での構築が推奨されています。
詳細についてはこちら (<https://enterprise.arcgis.com/ja/notebook/>) を参照ください。

※2：Kubernetes 上の ArcGIS Enterprise については、P.13 を参照ください。

※3：対応する ArcGIS Desktop または ArcGIS Pro エクステンションがある場合のみ有効です。

・サービスの種類/ホストレイヤーの種類/コンテンツ

サービスの種類	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
キャッシュ サービス - マップ、イメージ	○	○	○	×	×	×
ダイナミック マップ サービス	○	○	×	×	×	×
フィーチャ サービス	○	○	×	×	×	×
ジオコーディング サービス	○	○	×	×	×	×
ジオデータ サービス	○	○	×	×	×	×
ジオメトリ サービス	○	○	×	×	×	×
ジオプロセシング サービス	○	○	○※4	×	○※4	×
イメージ サービス - モザイク データセット	×	×	○	×	×	×
イメージ サービス - 単一ラスタ	○	○	○	×	×	×
ネットワーク サービス	○	○※5	×	×	×	×
パーセル ファブリック サービス	○	○	×	×	×	×
印刷サービス	○	○	×	×	×	×
すぐ使える Jupyter Notebook	×	×	×	×	×	○
スケマティック サービス	○	○	×	×	×	×
ストリーム サービス	×	×	×	○	×	×
ユーティリティ ネットワーク サービス	○	○	×	×	×	×

ホストレイヤーの種類	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
フィーチャレイヤー	○	○	×	×	×	×
マップ イメージレイヤー	○	○	×	×	×	×
イメージレイヤー	×	×	○	×	×	×
シーンレイヤー	○	○	×	×	×	×
ラスタ タイルレイヤー	○	○	×	×	×	×
ベクター タイルレイヤー	○	○	×	×	×	×

コンテンツ	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
ArcGIS Living Atlas of the World	○	○	×	×	×	×
ArcGIS StreetMap Premium (表示、ルート検索、ジオコーディング)	●	●	×	×	×	×

○：利用可能
●：追加可能
×：使用できない

※4：サーバーで構成済みのジオプロセシング サービスのみ利用可能です。

ジオプロセシング サービスの追加や修正はできません。

※5：ArcGIS Network Analyst エクステンションが必要です。

・エクステンション/入力データの種類

エクステンション	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
ArcGIS Network Analyst	○	●	×	×	×	×
ArcGIS LocateXT	●	●	×	×	×	×
ArcGIS Data Interoperability ※6	●	●	×	×	×	×
ArcGIS Data Reviewer ※6	●	●	×	×	×	×
ArcGIS Workflow Manager ※6	●	●	×	×	×	×
ArcGIS for Maritime ※6	●	●	×	×	×	×
ArcGIS Defense Mapping ※6	●	×	×	×	×	×
ArcGIS Production Mapping ※6	●	●	×	×	×	×
ArcGIS Roads and Highways ※6	●	●	×	×	×	×
ArcGIS Pipeline Referencing ※6	●	●	×	×	×	×

入力データの種類	Server タイプ					
	GIS Server Advanced	GIS Server Standard	Image Server	GeoEvent Server	GeoAnalytics Server	Notebook Server
3D フィーチャ (ポイント、ライン、ポリゴン)	○	○	×	×	×	○
3D シーン	○	○	×	×	×	○
住所ロケータ	○	○	×	×	×	×
ビッグ データ - フィーチャ	○	○	×	○	○	○
ビッグ データ - 画像/ラスター	×	×	○	×	×	○
フィーチャ データ (ポイント、ライン、ポリゴン)	○	○	○	○	○	○
画像/ラスター データ - モザイク データセット	×	×	○	×	×	○
画像/ラスター データ - 単ーラスター	○	○	○	×	×	○
3D メッシュ	○	○	×	×	×	×
LIDAR/テレイン データ - モザイク データセット	×	×	○	×	×	×
LIDAR/テレイン データ - 単ーラスター	○	○	○	×	×	×
マルチパッチ データ	○	○	×	×	×	×
パーセル フェブリック	○	○	×	×	×	○
点群	○	○	×	×	×	○
ラスター標高サーフェス	×	×	○	×	×	○
リアルタイム データ ストリーム	×	×	×	○	×	○
表形式データ	○	○	×	○ ※7	○	○
ユーティリティ ネットワーク	○	○	×	×	×	○

○ : 利用可能
 ● : 追加可能
 × : 使用できない

※6 : Windows OS のみ利用可能です。

※7 : GeoEvent Server は、表形式などのシステム ファイルからデータを取り込むことができます。システム ファイルのデータは、テキストで読み取り可能で、かつ区切りテキスト、JSON (一般的な JSON 形式)、または XML 形式である必要があります。GeoEvent Server は、フィーチャ レコードのフィーチャ サービスをポーリングし、これらのデータをイベント レコードとして処理することができます。GeoEvent Server はフィーチャ サービスを介して従来のリレーショナル データベース (RDBMS) と連携します。データベースのテーブルに直接接続して操作することはサポートされていません。

・ポータル機能

ポータル機能	ユーザーロール				
	管理者	公開者	ユーザー	データ編集者	閲覧者
データ、レイヤー、Web マップ、アプリケーションの参照	○	○	○	○	○
マップ上でのデータの可視化	○	○	○	○	○
データの三次元表示	○	○	○	○	○
データの動的な検索とフィルタリング	○	○	○	○	○
場所の検索 (ジオサーチ)	○	○	○	○	○
ターンごとのルート案内の生成	○	○	○	○	○
データの表示スタイル (シンボル) 変更	○	○	○	○	○
距離の計測	○	○	○	○	○
アイテムの追加、作成	○	○	○	×	×
レイヤー、サービスの公開	○	○	×	×	×
住所情報から経緯度情報の変換 (ジオコーディング)	○	○	○	×	×
レイヤー、Web マップの保存	○	○	○	×	×
データ、レイヤー、Web マップの共有	○	○	○	×	×
Web マップから Web アプリケーションの作成	○	○	○	×	×
データの編集	○	○	○	○	×
新しいアイテムとして保存	○	○	○	×	×
データの解析	○	○	○	×	×
グループによるコンテンツの保護	○	○	○	×	×
データ、レイヤー、Web マップ、アプリケーションへのセキュリティ設定	○	○	○	×	×
既存データからのビューの作成	○	○	×	×	×
独自の Web サイト、ページの作成	○	○	○	×	×
分散コラボレーションの作成や管理	○	×	×	×	×
ライセンスの管理	○	×	×	×	×
メンバーの追加と管理	○	×	×	×	×
メンバー アカウントの無効化	○	×	×	×	×
メンバーの削除	○	×	×	×	×

○：利用可能

×：使用できない

・ユーザー タイプ エクステンション / ユーザー タイプ別に指定できるロール

ユーザー タイプ エクステンション	ユーザー タイプ						
	Viewer	Editor	Field Worker	Creator	GIS Professional Basic	GIS Professional Standard	GIS Professional Advanced
ArcGIS Knowledge	×	●	●	●	●	●	●
ArcGIS Utility Network	● ※8	●	●	●	●	○	○
ArcGIS Trace Network	● ※8	●	●	●	●	○	○
ArcGIS Parcel Fabric	×	●	●	●	●	○	○
ArcGIS Workflow Manager	● ※8	●	●	●	●	●	●

※8：Viewer ユーザーが利用できる機能には制限があります。

○：利用可能
●：追加可能
×：使用できない

ユーザーロールと互換性のあるユーザー タイプ	ユーザー ロール				
	閲覧者	データ編集者	ユーザー	公開者	管理者
Viewer	○	○	○	○	○
Editor	○	○	○	○	○
Field Worker	○	○	×	×	×
Creator	○	○	×	×	×
GIS Professional	○	×	×	×	×

○：利用可能
×：使用できない

・サポートされるデータベース & データ接続

エンタープライズ ジオデータベースおよびクエリ レイヤーでサポートされるデータベースの種類
Amazon Aurora PostgreSQL ※9 Amazon RDS for Microsoft SQL Server ※9 Amazon RDS for Oracle ※9 Amazon RDS for PostgreSQL ※9 Google Cloud SQL for PostgreSQL ※9 Google Cloud SQL for SQL Server ※9 IBM Db2 ※10 IBM Informix ※10 Microsoft Azure Database for PostgreSQL ※9 Microsoft Azure SQL Database ※9 Microsoft SQL Server PostgreSQL SAP HANA SAP HANA Cloud ※9 Oracle Oracle Autonomous Transaction Processing ※9 Oracle Co-managed systems Virtual Machine DB Systems ※9
クラウド環境でサポートされるデータ ウェアハウスの種類
Amazon Redshift Google BigQuery Snowflake

※9：クラウド上にホストされているデータベースを使用するには、ArcGIS Enterprise をデータベースと同じクラウド環境内に配置する必要があります。

※10：IBM Informix および z/OS の IBM Db2 は、ArcGIS Desktop 10.x で公開する場合のみサポートされます。

クエリ レイヤーでサポートされるデータベースの種類
Dameng SQLite Teradata
ArcGIS GeoAnalytics Server でサポートされる入力データ
ホスト フィーチャ サービス フィーチャ サービス ストリーム サービス ビッグデータ ファイル共有 <ul style="list-style-type: none"> - Apache Hadoop HDFS ※11 - Apache Hive - AWS S3 and S3-compatible storage ※11, ※12 - Azure Data Lake Store ※11, ※12 - ローカルおよびネットワーク ファイル共有 ※11, ※12 - Microsoft Azure Storage ※11

※11：GeoAnalytics Server は解析結果をこれらのデータソースに書き込むこともサポートしています。

※12：シェープファイル、Parquet、ORC、区切りファイルがサポートされています。

※13：入力データソースに対応したサポート ソフトウェアは同梱されています。また、GeoEvent Server はこれらのデータソースに書き込むこともサポートしています。ArcGIS GeoEvent Gallery または ArcGIS GeoEvent Partner Gallery から入力コネクタをソフトウェアに追加することで、リストに記載されているデータソースに加えて、他のデータソースも入力データとして使用することが出来ます。

ラスター解析を実行する際にArcGIS Image Server でサポートされるラスターストア
Alibaba Cloud Object Storage Service (OSS) AWS S3 and S3-compatible storage ローカル ファイル共有 Microsoft Azure Storage Google Cloud Storage
ArcGIS GeoEvent Server でサポートされる入力データ ※13
ホスト フィーチャ サービス フィーチャ サービス ストリーム サービス ローカルおよびネットワーク ファイル共有 Kafka ネットワーク プロトコル <ul style="list-style-type: none"> - HTTP - TCP - UDP - RSS - WebSocket

クラウド環境のサポート

システム要件を満たすインフラストラクチャを使用して、任意のクラウドプラットフォームに ArcGIS Enterprise を導入することができます。Amazon Web Services (AWS) および Microsoft Azure の場合、ArcGIS Enterprise には事前構築されたイメージとデプロイメント ツールが付属しているため、デプロイメントのインストールと構成をさらに容易に行うことができます。

ArcGIS Enterprise on Kubernetes は、Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS)、Microsoft Azure Kubernetes Service (AKS)、および Red Hat Open Shift ベースのプライベートクラウド環境にデプロイすることができます。

ArcGIS Enterprise はクラウドネイティブストレージとクラウド管理されたデータベースをサポートしています。概要についてはこの機能比較表をご覧ください。また、各クラウドストアでサポートされている機能の詳細については、各ドキュメントをご覧ください。

クラウド ネイティブ ストレージは以下のものを含みません。

- AWS S3 and S3-compatible storage
- Microsoft Azure Storage
- Alibaba Cloud OSS
- Google Cloud buckets

OGC および Open Web サービスのサポート

Esri の Open Vision に従い、ArcGIS Enterprise は、以下の Open Geospatial Consortium, Inc. (OGC) および Open Web サービスをサポートします。

- Web Map Service (WMS)
(versions 1.0, 1.1, 1.1.1, and 1.3)
- Web Feature Service (WFS)
(versions 1.0, 1.1, and 2.0)
- Web Coverage Service (WCS)
(versions 1.0.0, 1.1.0, 1.1.1, 1.1.2, and 2.0.1)
- Web Map Tile Service (WMTS)
(version 1.0)
- Web Processing Service (WPS)
(version 1.0)
- Keyhole Markup Language (KML)
(version 2.2)
- GeoJSON

ArcGIS Image Server は上記と同じバージョンの Web Coverage Services を公開できます。

セキュリティ、認可、および認証

ArcGIS Enterprise は、アクセス管理やセキュアなリソースの権限設定など強固で効果的なセキュリティ フレームワークを提供します。セキュリティの構成は以下の機能を提供します。

- Web 層認証 (IWA, PKI)
- 多要素認証を利用した GIS 層認証 (ビルトイン)
- SAML 2.0 と OpenID Connect アイデンティティ プロバイダの統合
- エンタープライズ グループ
(Active Directory, LDAP, SAML 2.0)
- TLS 1.2 および後方互換性としての TLS 1.1 および TLS 1.0 のオプション サポート

・ ArcGIS Enterprise の構築

配置特性	自動化ツール				
	Chef	PowerShell DSC	AWS	Azure	ArcGIS Enterprise Builder
クラウド環境	○	○	○	○	×
オンプレミス環境	○	○	×	×	○
Windows OS	○	○	○	○	○
Linux OS	○	×	○	×	○
単一マシン構成	○	○	○	○	○
複数マシン構成	○	○	○	○	×
高可用性構成	○	○	○	○	×
ArcGIS Enterprise 基本配置のセットアップ	○	○	○	○	○
ArcGIS Server のセットアップ	○	○	○	○	×
Image Server のセットアップ	○	○	○	○	×
GeoEvent Server のセットアップ	○	○	○	○	×
GeoAnalytics Server のセットアップ	○	○	○	○	×
Notebook Server のセットアップ※14	○	○	○	○	×
構成のアップグレード ※15	○	○	○	○	○
構成に関する設定テンプレート	○	○	○	×	×
構成に関するマシン イメージ	×	×	○	○	×
コマンドライン インターフェイス	○	○	○	○	○
ウィザード インターフェイス	×	×	○	○	○

○：利用可能
 ×：使用できない

※14：Ubuntu のみ AWS、Windows Server 2019 for Azure で利用可能です。

※15：このツールを使用してセット アップされた構成のみ、アップグレードすることができます。

・ユーザー タイプ ライセンス

ユーザー タイプ

ArcGIS Enterprise は、ID ベースのセキュリティ モデルを使用しています。ArcGIS Enterprise 内のセキュアなコンテンツにアクセスするためには、個人が ArcGIS Enterprise 構成のメンバーであり、システム内に ID を持っている必要があります。ArcGIS 全体で ID はライセンス認証され、ユーザー タイプ ライセンスを通して割り当てられます。

ユーザー タイプには、5 種類の汎用ユーザー タイプ (Viewer、Editor、Field Worker、Creator、GIS Professional) があり、それぞれに機能や付属アプリケーションがあります。ユーザー タイプとその機能、アプリケーションの詳細についてはこちら (<https://www.esri.com/en-us/arcgis/products/user-types/overview>) を参照ください。

また、ArcGIS Enterprise では、ユーザー タイプ エクステンションも用意されています。これらのエクステンションを利用して、追加機能へのアクセスが可能です。エクステンションでは、ArcGIS Utility Network、ArcGIS Trace Network、ArcGIS Parcel Fabric、および ArcGIS Workflow Manager が利用可能です。

初期購入時に付属するユーザー タイプ

ArcGIS Enterprise エディション/レベル	ユーザー タイプ	
	Creator	Viewer
ArcGIS Enterprise Standard	5	Unlimited
ArcGIS Enterprise Advanced	50	Unlimited
ArcGIS Enterprise Workgroup Standard	5	0
ArcGIS Enterprise Workgroup Advanced	10	0

注意：本ドキュメントに記載されている情報は、Enterprise Agreement (EA) や教育サイト ライセンスなどの特別なプログラムには適用されません。付属する指定ユーザー エンタイトルメントの詳細な情報は、ESRI ジャパンまでお問い合わせください。

補足：Viewer ユーザー タイプは、以前のリリースのレベル 1 指定ユーザーと同等の機能を有し、Creator ユーザー タイプはレベル 2 指定ユーザーと同等の機能を有しています。

・ ArcGIS Enterprise の基本ライセンス

ArcGIS Enterprise のエディションとレベル

ArcGIS Enterprise は 2 種類の利用機能 (エディション) と 2 種類の利用規模 (レベル) に応じたライセンスを提供しています。

エディションは Standard と Advanced で、レベルは ArcGIS Enterprise と ArcGIS Enterprise Workgroup があります。

特に区別する必要がなければどのようなエディション、レベルでも、まとめて ArcGIS Enterprise と呼んでいます。

ArcGIS Enterprise Workgroup レベル

ArcGIS Enterprise Workgroup は、ArcGIS Enterprise と同じ機能を提供しますが、少人数のチームや小規模な組織向けのライセンスです。

Workgroup レベルは、ArcGIS Enterprise のライセンスと以下の点が異なります。

- ・ ワークグループ ジオデータベースは、Microsoft SQL Server Express のみサポートし、データベースの最大容量は 10 GB に制限されます。また、ワークグループ ジオデータベースの Desktop クライアントからの同時接続が 10 までに制限されます。
- ・ Workgroup レベルは、ファイルベースのデータソース (ファイル ジオデータベースなど) とワークグループ ジオデータベースのみの利用に制限されます。エンタープライズ ジオデータベースの利用は許可されていません。
- ・ ArcGIS Enterprise の基本ライセンスでの基本配置は、すべてのコンポーネントを 4 コアまでの単一のマシンにインストールする必要があります。
- ・ 各サーバー ロールは 4 コアが最大です。追加のロールは、基本配置とは別のマシンに配置することができます。時空間ビッグ データ ストアは、別個の 4 コア マシンで構成できます。
- ・ Workgroup ライセンスではユーザー タイプ エクステンションを利用できません。
- ・ ArcGIS Enterprise Workgroup レベルでは、どのエディションでも 1 つの配置につき最大 10 人のユーザーがサポートされます。ArcGIS Enterprise Workgroup Standard には、Creator ユーザー タイプが 5 人含まれています。合計ユーザー数が 10 人を超えない限り、さらに最大 5 人分のユーザー タイプ (Viewer または Creator) を追加することができます。ArcGIS Enterprise Workgroup Advanced には既に 10 人分の Creator ユーザー タイプが含まれているため、ユーザー タイプを追加することはできません。

詳細についてのお問い合わせはこちら (<https://www.esri.com/form/inquiry/>) まで。

他のサーバー ライセンス

ArcGIS GIS Server Basic は、主にエンタープライズ ジオデータベース機能を提供する機能制限のあるソフトウェアです。

ArcGIS GIS Server Basic は、ArcGIS Enterprise 機能の一部として統合することはできません。

また Web GIS 機能へのアクセスも有効化できません。※ 16

ArcGIS Enterprise on Kubernetes のデプロイメント オプションを使用している場合は、ArcGIS GIS Server ライセンスを適用します。

※16：ArcGIS Enterprise 10.9 以前の機能比較表に記載されている ArcGIS GIS Server Basic の機能と同様です。詳

・ Kubernetes

ArcGIS ENTERPRISE ON KUBERNETES

ArcGIS Enterprise on Kubernetes は、Amazon Elastic Kubernetes Service (EKS)、Azure Kubernetes Service (AKS)、Google Kubernetes Engine (GKE)、および Red Hat OpenShift ベースのプライベート クラウドを使用したクラウドでのデプロイメントが可能です。

ArcGIS Enterprise on Kubernetes は、マイクロサービスとコンテナ化の原則に基づいてクラウド ネイティブ アーキテクチャを提供します。予期せぬサービスの需要に対応するための動的なスケーリングの実現、デプロイメントとアップグレードの合理化、およびインフラストラクチャリソースの最適化など大きなメリットがあります。

ArcGIS Enterprise on Kubernetes は、既に Kubernetes に精通している組織における(複雑な)マルチマシン デプロイメントを対象としています。そのため、特定の資格要件を満たす ArcGIS Enterprise のお客様およびパートナーの皆様を提供致します。

詳細についてのお問い合わせはこちら (<https://www.esrij.com/form/inquiry/>) まで。

・ 以前のバージョンの機能比較表

- ・ [ArcGIS Enterprise 10.9 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.8.1 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.8 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.7.1 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.7 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.6.1 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.6 機能比較表](#)
- ・ [ArcGIS Enterprise 10.5&10.5.1 機能比較表](#)

ArcGIS Enterprise 10.9.1 機能比較表

2021年11月30日

ESRIジャパン株式会社

<https://www.esrij.com/>

Copyright(C) Esri Japan. 無断転載を禁ず

本書に記載されている社名、商品名は、各社の商標および登録商標です。

本書に記載されている内容は改良のため、予告なく変更される場合があります。

本書の内容は参考情報の提供を目的としており、本書に含まれる情報はその使用先の自己の責任において利用して頂く必要があります。